

日記指導をどうするか？

私は、宿題というものをほとんど出したことがありません。
出しても、漢字1個か2個、計算問題を1題程度。
そんなもんです。
つまり、計画的に宿題というものを出したことがないのです。
私が出す宿題の多くは、授業時間でのごく小さな積み残し程度なのです。
ですが、日記は新卒当初から宿題として出していました。
私の日記指導のねらいは次のようなものでした。

- ・作文の基礎体力を養う。
- ・話し言葉でのコミュニケーションが苦手な子と交流する。

この二つにつきます。
私は、教職経験の中で1年だけ日記指導をしなかった年があります。
その年の子どもたちと、違う年の子どもたちの作文能力の差は歴然としています。
それはそうです。
長期休暇中も何らかの日記を書かせますから、365対0です。
差があるに決まっています。
さて、日記指導にはどのような段階があり、どのような指導事項があるのでしょうか？

第1段階

- ・毎日書く。
- ・日付をつける。
- ・題名をつける。

第1段階は以上のようなことに留意して指導します。
特に大事なのは、毎日書くということです。
むろん、子どもは毎日書きますが、教師が見るのは1週間に1回です。
つまり、子どもは1週間に1回だけ提出するわけです。
こうしたシステムの中で、毎日書くというのは結構たいへんなことです。
子どもにしてみれば、「まあ2、3日ためて書いても大丈夫さ」と思うのです。
この段階では、教師はそういうことに目をつぶってもいいのです。
とにかく、毎日の日付で書かれてさえいればいいのです。

第2段階

- ・長く書く。

およそ2ヶ月くらいでしょうか、それくらいたつと内容が単調になってきます。
そこで、変化をさせるために、「10行以上書くこと」という条件を付けます。
ここで注意しなければいけないのは、「長く書け」といって子どもが長く書けるようになるなら教師はいらないということです。
当然、長く書くための指導が必要です。
それは、国語の授業中行われます。

例えば、次のような授業をします。

- ・目の前に豆腐をおいて、「豆腐にラブレターを書くつもりで長く長くほめてみる」
- ・「明日の算数の時間が体育になるように、先生を説得する作文を書いてみる。納得できたら体育にしてもいいぞ」
- ・「先生の悪口を書け」

こうしたテーマで書かせる中で、次のようなことを一般化していくのです。

- ・形容詞の運用。
- ・五感を使って書く。
- ・擬態語、擬声語の活用。
- ・会話文の活用。

第3段階

- ・意見文を書く。

時事問題なども取り入れて、次のような書式で書かせます。

私は、 について、賛成・反対です。
理由はいくつあります。
一つめは、
もしも～
二つめは
例えば～

こうした書式を与えて書かせていきます。
私の学級の子どもの作文を一つ引用しておきます。

疲れた心

持久走のスタートの時、自分で最後まで走れるのだろうか、心配していた。

スタートの合図と同時に飛び出した。一周目の半分で緊張がとけた。

やっと、一週目が終わって、次に二週目に入った。「女子だったらここで終わりなのにな」と思いながら走り続けた。

三週目、先頭の大西くんがゴールした。いいなあと思いながら走っていた。たぶん大西くんが入ってから次々に入っていたんだろう。走っていてわかんなかった。

四周目、心臓がバクバクしていた。たぶん心臓は「もうやめろよ」と言っていたんだ。

でも、ぼくはやめなかった。運動会の行進が始まる前、先生に呼ばれた。先生はこう言った。「ビリはずかしい。けど、最後まで走ったら気持ちがいいぞ」と言った。

ぼくは涙がどっと出た。本当はあまり苦しくなかった。先生が「気持ちが落ち着いたら来なさい」と言って行った。

ぼくはすぐに涙をふいてグラウンドに行ったことが思い出された。ラスト一周、全員ゴールしてぼくしかいなかった。お客さんがはげましてくれた。

そして最後の直線、ゴールには山田洋一先生がいた。

ぼくは、最後の力をふりしぼって走ってゴールした。先生がだきしめてこういった。「よくがんばったぞ」。

ぼくは、涙が止まらなかった。